

新宿と伝説

◇本区には、百三十を超える伝説・昔話が残されています。今回は、その中から三つのお話を紹介します。機会がありましたら、児童・生徒たちにも話して頂けると幸いです。

(原典「新宿と伝説」新宿区教育委員会刊)

① カツパのでる坂 - 合羽坂のいわれ (市谷本村町、片町)

かっぱざか

片町から市谷仲之町に向かって登っていく坂は「合羽坂」と呼ばれてきました。

昔の住吉町付近(低地)には池や沼がたくさんありました。そこにはカツパたちが住んでいました。いたずらカツパは近くの坂道に現れて、人や馬を驚かせていたそうです。そのため坂道の名前が、いつしかカツパ坂になり、「合羽」の字をあてるようになり現在にいたっています。

また農耕地では、作物にいたずらをしたり、食べたり、とったりして荒らしまわる困ったカツパもいました。あいそよく田圃の草取りなどを手伝ってくれるカツパもいました。カツパもいろいろでした。

このカツパの出自は、「かわうそ」だそうです。伝説上のカツパを実在しているかのよう話題にしてきた昔の人の気持ちを大切にしたいものです。

ここで、谷川俊太郎さんのカツパの詩を歯切れよく読むと、愉快的気持ちになります。子どもたちと一緒に読むと楽しいと思います。

かっぱ

谷川俊太郎

かっぱ かっぱらった

かっぱ らっぱ かっぱらった

とって ちってた

かっぱ なっぱ かった

かっぱ なっぱ いっぱ かった

かって きって かった

現在の合羽坂



② 太田道灌と紅皿

応仁の乱で、京から武蔵国の豊島郡高田村に逃げのびた一人の落ち武者がいました。この者には紅皿という一人娘がいました。母は亡くなっていました。この娘はすくすく成長し、歌をたしなむ才女でした。また親によく尽す孝行者でした。

ある日のこと、太田道灌が高田でタカ狩りをしていました。すると、急に雨がふってきました。道灌の一行は雨具を用意していませんでした。一行は、近くの民家に立ち寄り、蓑（雨具）を貸してもらえないかと頼みました。そこは紅皿の家でした。応対に出てきた紅皿は、一瞬間を赤らめ奥に入りましたが、庭にある山吹の枝を折り盆のうえにそれをせて「おはずかしゅうございます」と、道灌に差し出しました。

その様子を見た道灌は、「田舎には珍しい乙女ではあるが、口もきけぬとは、あわれな娘よ」と、不憫に思いました。一行は仕方なくぬれながら帰城しました。しかし、道灌は紅皿の振る舞いが心に残っておりまして。そこで、かれはそのことを中村重頼に話して意見を聞きました。

話を聞いた重頼は感動しました。昔の書物である「後拾遺集」の中にある歌、

七重八重 花は咲けども 山吹の 実の（蓑）ひとつだになきぞかなしき

を示し、「紅皿は、雨具の蓑さえないことを古歌の意を借りてあらわしたのです」と申し上げました。それを聞いた道灌は、歌の教養のない自分を深く恥じて、それから後、歌道・学問に志しました。

その後、紅皿は城に招かれ、道灌の歌の友として大事にされました。紅皿との出会いを契機に「文武両道」に秀でた武人としての誉れが一層高くなった道灌でしたが、一四八六年神奈川の伊勢原槽谷で命を落としました。道灌亡き後、紅皿は剃髪して浄照清月比丘尼と称し、大久保に庵をつくって寂しく暮らしました。

大聖院にある紅皿の碑



・山吹坂（左下写真の階段）をのぼると大聖院があります。（天神小学校・新宿中学校より徒歩2分）

◇落合第四小学校の校歌には道灌と紅皿のエピソードが入っています（歌詞の一節）

みのを からんと
いうひとに
はなを ささげて
ふみのみち

山吹の里の碑



神田川・面影橋たもと

◇山吹の里の碑（戸塚第一小学校より徒歩3分）

太田道灌鷹狩の図（江戸名所図会）

道灌は雨に濡れないように蓑を借りようと思いました



八重のやまぶき



一重のやまぶき



◇やまぶきの花（一重には実がなりますが、七重八重の花には実がなりません。雌雄別株）



蓑
(外側)

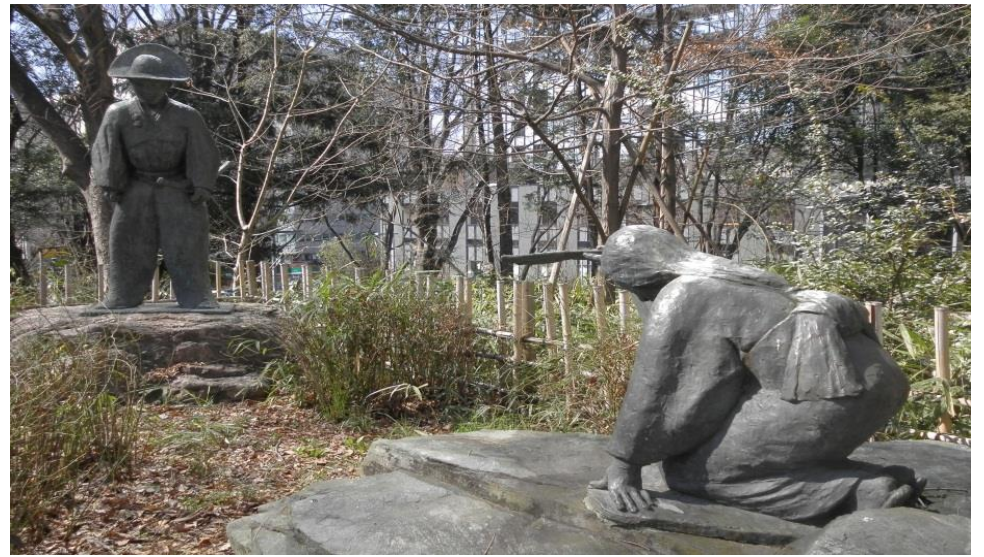


蓑
(内側)

「太田道灌初歌道志図」江戸東京博物館所蔵



新宿中央公園の北側に山本豊市氏制作(昭53年(1978)4月)の「久遠の像」があります。この像は等身大で、紅皿がひざまずいて扇の上に山吹の花を乗せて差し出しています。道灌と少女の間には距離があります。



③ 内藤家の駿馬

ないとうけ しゅんめ

徳川家康は、江戸にはいると、信州高遠たかとうの城主、内藤清成ないとうきよなりを呼びました。そして、今の新宿御苑一帯の地を示して「お前が馬で一息に回れるだけの土地全部を与える」と語りました。

内藤氏は感激して、直ちに愛馬にうちまたがり森と野原一帯を息もつがずに一周しました。しかし、この白馬は出発地点に戻ると、滝のような大汗を流し疲労困憊ひろうこんぱいして倒れました。そして、そのまま落命しました。

家康は、約束通り内藤氏に、東は四谷、西は代々木、南は千駄ヶ谷、北は大久保に至る広大な土地を領地として与えました。

一方、内藤氏は愛馬のために駿馬塚を邸内につくり、ねんごろに馬の霊をまつりました。

現在、駿馬塚は、内藤家の祖先藤原氏をまつった多武峯神社の移転に従い、内藤町にある今の内藤神社境内に移されています。



多武峯内藤神社



駿馬塚(神社正面右側)



白馬の像